

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

若手後継者の本音 Renewal

田島 祐樹さん

ご当地牛乳・乳製品特集

(大阪支所管内)

第65年度(平成26年度)

事業計画案

人事異動



酪農トピックス／

全国酪農青年女性会議元役員、飯舘村を訪問(仙台)ほか

新入職員入会式

日本酪農見て歩紀(群馬県高崎市 柴山宗生牧場)

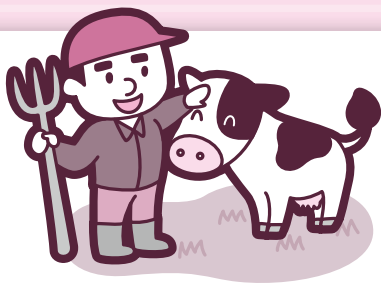


4

2014 April No.583



全国酪農業協同組合連合会



若手後継者の 本音 Vol.7

ホンネ

異業種から酪農経営へ参画！ 規模拡大による経営強化を目指して

今回は、**長崎県諫早市南高木町 田島牧場**の後継者
田島 祐樹さんにお話を伺いました。



▲ 経営主の数信さんと祐樹さん、長男の光くん

【経営概況】

所 属 ながさき県酪農業協同組合
家族構成 経営主の数信さん(祖父)、ミトシさん
(祖母)、祐樹さん(27)
飼養頭数 経産牛34頭、育成牛8頭

概況

田島牧場は、ながさき県酪農業協同組合(山下俊忠代表理事組合長)に所属し、現在経産牛34頭、育成牛8頭を飼養しており、経営主の数信さん(祖父)、ミトシさん(祖母)、祐樹さん(27)の3人で飼養管理を行っています。

今回は、後継者として日々頑張っている祐樹さんにお話を伺いました。祐樹さんは地元諫早市の創成館高校ビジネス科を卒業後、地元電機会社へ就職。3年ほど就労後、数信さんが経営する酪農を引き継ぐために就農し、今年で3年目となります。

就農のきっかけを教えてください

自分は高校を卒業してから、電気関係等、異業種で働いていましたが、ある日祖父が酪農を辞め、酪農を廃業するという話を耳にしました。自分は小さいころから祖父が酪農に勤しむ姿を見て育ちました。祖父、祖母が日々汗を流しずっと守り続けてきた酪農をここで終わらせてしまっているのか？何とか自分が継承して酪農を続けられないか？という気持ちが日増しに強くなり、就農を決意しました。

就農して大変だと思われた点は？ また良かったと思う点は？

いざ継承を決意したものの、自分にはそれまで酪農に携わった事が無く、経験や知識も無く、不安の方が大きかったです。異業種から飛び込んだの経営参画でしたので技術的なものも身につけていませんでしたからね。祖父、祖母にも手伝ってもらっていましたが経営を行っていましたが、最初のうちは本当に大変でした。しかもほとんど休みを取れずずっと働き詰めで、酪農ってこんなに辛いものなのかと思いました。

でも自分が後継者としてこれから経営を引っ張っていかなければならないという自覚



牛舎から望む雲仙岳

は常に持っていました。知識の習得や今後の経営についてしっかりと考えたねばと思い、自分でもいろいろ勉強をしました。今では牛舎作業の全般をこなせるようになりましたし、一昨年には人工授精師の資格も取得することができました。

経営については、自分が就農した時は飼養頭数が15頭程だったのですが、今後経営内容を充実、強化していくには規模拡大し生産量を増やしていかねばならないと考え、祖父母、組合とも相談を重ね、規模拡大を決意し、昨年40頭規模の牛舎を新築。搾乳牛を導入し飼養頭数も35頭に増やすことが出来ました。就農して3年目で自分が計画した規模拡大が実現出来たことは自分にとってもとても嬉しい



牛舎全景

事であり、「酪農を継いで良かった！」と思える瞬間でした。

今後の目標について お聞かせください

増頭してからは当然のことながらこれまで以上に忙しくなりましたが、これからが勝負だと思っています。飼養頭数が増えた分、牛舎での作業、そして牛の飼養管理の徹底はますます重要なものになってくると感じています。就農して3年経ち、まだまだですが、飼養管理の技術はこれまでの経験、そして組合の職員の方や全酪連の担当者のフォローも頂きながら着実に身についてきたと思います。昨年末からは牛群検定に加入しました。今後個体の状態や乳量の動きを確実に把握して経営に活かしていきたいと思っています。

そして、次の目標としては、35頭に増やした牛を40頭規模までに増頭して、乳量も1頭当たり平均30kgまで持っていきたいと思っています。そのためには組合や各関係機関の方々とも連携し、更に自らの技術を磨いていきたいと考えています。

今年お子さんが誕生という話を 聞きました

昨年結婚し、今年1月に待望の長男が生ま

れました。今後は良き父親となれるようにしっかりとしないといけない、そして酪農経営ももっと頑張らないと、という気持ちが一層強くなりました！

将来、子供が自分の姿を見て酪農についていな！と感じてくれるように、頑張りたいと思っています。先程、酪農は休みが無くて…と話しましたが、これからはヘルパーも活用し、妻や子供と接する時間をとり、そして祖父母を休ませてあげられるようにしたいと思います。

最後に、全国の若手後継者の皆さん へ一言お願いします

酪農情勢はここ数年大変厳しい状況にあり、今後どのようにしていくのか不安な気持ちもありますが、こういう時こそ我々若い世代が前向きに考え、頑張っていかなければならないと思います。自分もこれからもっと頑張つて長崎、そして九州の酪農を支える一翼を担っていききたいと思っています。全国の若手後継者の皆さん、お互い頑張っていきましょう！

異業種から酪農に入り、苦労をされながらもしっかりとした信念と目標を持って規模拡大や飼養管理の徹底に取り組んでおられる祐樹さんの姿はとても頼もしく感じられました。田島牧場の更なる発展を祈念いたします。

出雲ヨーグルト 450g

価 格：238 円（税別）

製造者・販売者：島根県中央酪農農業協同組合連合会

<http://www.shimane-churaku.or.jp/>

問い合わせ先：0853-22-5300

購入可能場所：主に島根県内の量販店

内容量：450g

原材料（成分表）：生乳、砂糖、乳製品、寒天、安定剤（ペクチン）、香料



アピールポイント

- 出雲地方で生産された生乳をたっぷり使用、風味豊かなヨーグルトは、「おいしい」と「飽きのこない」ハードヨーグルトです。
- 地元では長い間、親しまれる商品となり子供様から大人の方まで食べていただいております。

らくれん タしぼり

価 格：1000ml 270 円、500ml 160 円、180ml 140 円（全て税込）

製造者・販売者：四国乳業株式会社

<http://www.rakuren.co.jp/> 問い合わせ先：089-966-1100

購入可能場所：愛媛県下のスーパー



アピールポイント

- 搾乳後 24 時間以内に殺菌・パック詰めをおこない、鮮度とおいしさにこだわった夕方搾りの牛乳です。
- 酪農家を三軒に限定し、品質管理を徹底しています。

内容量：1000ml、500ml、180ml

原材料（成分表）：生乳 100%

白バラアイス&濃い味ケーキセット（サマーギフト）

価 格：4,860 円（税込） 製造者・販売者：大山乳業農業協同組合

<http://www.dainyu.or.jp/> 問い合わせ先：フリーダイヤル 0120-662206

購入可能場所：最寄りの大山乳業製品取扱牛乳販売店、当組合フリーダイヤルでも受付可

アピールポイント

- 鳥取県産の生乳とクリームを使用したアイスクリームと、鳥取県産二十世紀梨を使用したシャーベット、濃厚な味わいが特徴のベイクドチーズケーキを詰め合わせました。アイスもお菓子も楽しめる夏にぴったりのギフトセットです。

内容量：[アイスの部] 131ml × 8 個、チーズケーキの部：272g（1 個）

[セット内容] バニラアイス 4 個、抹茶アイス 2 個、二十世紀梨シャーベット 2 個、ベイクドチーズケーキ 1 個
主な原材料（成分表）：アイスクリーム（バニラ、抹茶）…生乳、クリーム、加糖れん乳、砂糖、脱脂粉乳、卵黄、他
二十世紀梨シャーベット…二十世紀梨果汁・果肉、洋梨果汁、水あめ、加糖ぶどう糖液糖、砂糖、麦芽糖、乳製品、他
チーズケーキ…チーズ、サワークリーム、卵、砂糖、小麦粉、牛乳、他



「ミルクファーム HARU」手作りアイスセット

価 格：3,000 円（税別）

製造者・販売者：広島県酪農農業協同組合

<http://hiroraku.or.jp/>

問い合わせ先：0824-64-2077

（広島県酪農農業協同組合 市乳販売促進課）

購入可能場所：「ミルクファーム HARU」

（広島県庄原市新庄町 291-1 食彩館しょうばらゆめさくら内）

広島県酪農農業協同組合
ホームページへ！



内容量：120ml × 8 個入り

原材料（成分表）：生乳、砂糖、生クリーム、脱脂粉乳、他

アピールポイント

- 庄原の酪農家からやってきた牛のお乳を使って手作りした濃厚なアイスです。生乳本来の風味・おいしさを損なわないように作るため、硬めのアイスに仕上がっています。

ご当地 牛乳・乳製品 特集

大阪支所管内

日本各地に様々な種類がある牛乳・乳製品ですが、他地域でどのような商品があるかご存知でしょうか？ご当地でしか食べられない牛乳・乳製品をご紹介します！と立ち上がったこの企画。今月号は大阪支所管内の商品をご紹介します。



匠 淡路島牛乳 匠 淡路島ヨーグルト

価 格：匠牛乳 250 円、匠ヨーグルト 150 円（税込）…参考価格

製造者・販売者：淡路島酪農農業協同組合

問い合わせ先：0799-42-5013（淡路島酪農農業協同組合 牛乳工場）

購入可能場所：ダイエー（近畿エリア）、キヨーエー（四国エリア）

アピールポイント

- 兵庫県淡路島の中でも高基準を満たした生産者限定です。
- 生乳を搾乳から短時間で集乳、殺菌を行う匠牛乳は鮮度重視認証食品です。
- 匠ヨーグルトは匠牛乳に使用する生乳を90%以上使用した新商品贅沢ヨーグルトです。

内容量：匠牛乳 1,000ml、匠ヨーグルト 110g

主な原材料（成分表）：匠牛乳…生乳 100%

匠ヨーグルト…生乳、脱脂粉乳、砂糖、クリーム、他

丹波ヨーグルトセット（飲むヨーグルト 900ml、ヨーグルト 90g）

価 格：3,900 円（税込） 製造者・販売者：兵庫丹波酪農農業協同組合

<http://www.hyogotantan.or.jp/> 問い合わせ先：0795-82-6324

アピールポイント

- ボリューム感のある飲むヨーグルトと、小豆・黒豆・ブルーベリーの丹波の味覚をセットにしました。
- 原料として使用している氷上低温殺菌牛乳は生産者限定で、新鮮な牛乳を 65℃ 30 分間の低温殺菌しており、牛乳の大切な栄養分が熱変性せず、牛乳本来の性質が破壊されておりません。
- ヨーグルトには全て生産者限定の生乳を使用しています。また、原乳・小豆・黒豆・ブルーベリー、全て丹波産の物を使用しておりますので、丹波ならではの味をお楽しみ頂けます。

内容量：のんじゃえ丹波 2 本、大納言小豆ヨーグルト 3 個、黒豆ヨーグルト 3 個、ブルーベリーヨーグルト 3 個

主な原材料（成分表）：・のんじゃえ丹波：生乳、糖類（さとう混合ぶどう糖果糖液糖）、脱脂粉乳、他
・大納言小豆 YG：生乳、丹波大納言小豆鹿の子（砂糖、丹波産丹波大納言小豆、還元水飴）、砂糖、乳製品、他
・黒豆 YG：生乳、丹波産黒豆煮豆（丹波産丹波黒大豆、砂糖、食塩）、砂糖、乳製品、他
・ブルーベリー YG：生乳・ブルーベリー果肉（丹波産ブルーベリー、砂糖）、砂糖、乳製品、他



やまぐちきらら牛乳

価 格：1000ml 255 円・500ml 150 円・200ml 95 円（全て税別）…参考価格

製造者・販売者：やまぐち県酪乳業株式会社

<http://www.yamaraku.co.jp/> 問い合わせ先：083-288-0500

購入可能場所：主に山口県下の量販店・コンビニエンスストアなど

アピールポイント

- 公正競争規約の定める「高品質基準」（無脂乳固形分 8.5% 以上、乳脂肪分 3.5% 以上）を満たした山口県産生乳のみを使用しています。
- ・生産…生乳生産成績の良い農家のみを選定し、集乳。農家ごとに実施した乳脂肪分等の検査結果が基準をクリアしている生乳のみを専用タンクに受入、基準を満たさないものが混ざることのないように、管理しています。
- また、おいしさが長持ちする ESL 製法で、製造しています。
- ・流通…商品の劣化を防ぎ、牛乳本来のおいしさを守るため、遮光性パッケージで流通しています。
- ・販売…やまぐち県酪乳業の最高品質の牛乳ブランドとして、200ml・500ml・1000ml を揃え、「山口きらら博」にちなんで、「きらら」という言葉を使った商品名で販売しています。

内容量：1000ml・500ml・200ml
原材料（成分表）：生乳 100%



第65年度(平成26年度)

事業計画案

(平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日)

I 基本的考え方

本会では平成24年度に策定した「全酪連将来ビジョン」に掲げたとおり、会員農協・酪農家が地域に根ざし安定した酪農経営が継続でき、酪農後継者や新規就業者が従事しやすく将来に希望を持てる環境を作り、消費者が求める安全・安心で良質な国産生乳を安定して生産し供給することを推進すべく、重点実施施策を設定する。また、持続可能な酪農を実現するべく酪農生産基盤の維持・拡大のため、第九次中期事業計画の基本方針・基本施策に基づき、中期3か年計画の最終年として計画の達成を目指す。

本会は、第九次中期事業計画に基づき事業を展開していますが、最終年度となる平成26年度事業計画は、3月4日開催の理事会で承認され、3月10日から全国6カ所で開催された『ブロック別会長・組合長会議』において報告・協議されました。最終的には7月24日に予定しています通常総会に諮ることになっています。

以下に、第65年度(平成26年度)事業計画(案)の概要を報告いたします。

II 基本方針

酪農経営及び酪農生産基盤の維持・拡大に寄与するべく、以下の事項について本会と会員が一体となり酪農生産現場を中心とした事業を展開していくこととする。

1. 酪農生産環境整備の推進
2. 酪農生産現場の生産性の向上
3. 酪農生産物の有利販売の強化
4. 組織運営の効率化と財務体質の強化
5. コンプライアンス経営の推進

III 重点実施施策

1. 酪農生産環境整備の推進

(1) 酪農家戸数維持への取組み

① 酪農家経営管理支援(DMS)システムの充実を図るとともに、その経営診断で得られた経営データベースを活用し、会員農協と全酪連が一体となって、酪農家の経営体質を強化し酪農家戸数の維持に貢献する。

② 酪農後継者育成のため、全国酪農青年

女性会議及び地域酪農青年女性(婦人)会議の活動に対する運営支援を通じて、地域のリーダーの養成と酪農後継者の交流を図る。併せて、後継者への円滑かつ確実な事業承継を支援する後継者支援チーム等の活動を進める。

③ 新規就農に関する活動を支援するため、関連団体との情報交換を充実させ、就農希望者や経営譲渡希望者への、制度・手続き等の情報提供等の環境整備に努める。また、全酪連会報、全酪連ホームページを活用し、情報提供を行う。さらには、新規就農希望者の研修の場としても重要なヘルパー事業の継続及び発展に資するため、酪農ヘルパー全国協会への支援を継続する。

(2) 搾乳牛確保への取り組み

販売預託事業の拡充を図るため、北海道の受入れ体制の拡充と利用会員の拡大に努めるとともに、後継牛確保の支援策を講じる。

(3) 会員農協組織の強化

① 会員農協の組織機能強化に資する内容の研修会開催や、会員農協組織の経営安定・強化に係る経営管理手法に関する事項についての情報提供を行う。また、研

修会や全酪連会報・全酪連ホームページを通じて、必要情報を会員農協及び酪農家に広く提供する。

② 酪農専門農協として必要な組織機能を継続的に果たすため、各地域の実情や問題を把握し、それぞれの実態に合わせた組織再編整備を会員農協と連携して推進する。また、組織再編整備進行中の地域・会員農協については進行上の助言、情報提供等を行う。

(4) 酪農関連全国組織としての強化

酪農関連全国組織に求められる目的を果たすための効率的な組織の在り方について、関係団体と協議する。

(5) 政策・制度への提言

東日本大震災からの復興、福島原発事故による放射能汚染対策、口蹄疫等家畜伝染病への防疫対策等について、関連団体と協力して対応する。またヘルパー事業への支援措置強化等、酪農生産基盤安定化につながる政策・制度についても関係団体と協議を進める。

(6) 自給飼料生産基盤確保への取り組み

生産技術情報の提供や行政との連携を図り、自給飼料生産の拡大を支援する。

2. 酪農生産現場の生産性の向上

(1) 生産性の向上のため技術指導の充実

① 「全酪連酪農セミナー」を有効的に活用し、地域単位での研修会を充実させ、技術普及に努めるなど、会員農協・酪農家への情報提供を積極的に行う。

また、会員・本会職員に対して技術指導に重点を置いた教育プログラムを実施し、酪農生産現場での対応力向上を図る。

② 製品開発力の向上のため、酪農技術研究所での試験研究の充実と同時に公的研究機関との連携を強化する。

(2) 信頼できる生産資材の安定供給

① 会員農協・酪農家のニーズを的確に対応し、これに合致する製品の開発・供給を進めることにより、直営製品供給数量の維持拡大を図る。加えて、エコフィードの利用拡大によるコスト低減に努める。

② 北米・豪州の牧草輸出業者等との連携を密にし、会員農協・酪農家が求める品質の輸入乾牧草、ビートパルプを安定的に供給する。また、作柄等の現地情報を会員農協に迅速に提供し、供給の拡大に資する。さらに、原発事故後の草地除染

が完了していない地域では、自給飼料の利用が困難であることから、引き続き行政等と協調して代替乾牧草を円滑に供給する。

- ③ 暑熱対策製品や移行期対応製品などの特色ある酪農生産資材を提案し、特に飼料添加物については重点的品目に位置づけ、供給の拡大に努める。

- ④ 直営工場の鹿島飼料工場を全国酪農飼料株式会社に移管し、製造・供給部門の機能分化による効率化と製造技術者の育成を強化するとともに、省エネ及び生産性向上関連設備の導入や、他社からの受託数量の拡大により工場コストの低減に努める。

3. 酪農生産物の有利販売の強化

(1) 生乳需給調整機能の強化

- ① 再委託販売事業の強化
地域ごとの生乳需給特性に合わせ、当該指定団体と連携を深めるとともに、会員農協系乳業や関連乳業者との協力体制を構築することにより、乳業者のニーズを取り込み、広域流通調整への対応力強化に努める。

② 需給調整の実施

直営及び関連乳製品工場や会員農協系乳業の機能を活用して需給調整を的確に実施し、発生した乳製品を積極的に取り扱うとともに、地域ごとの需給調整手法の取組内容について、指定団体や関連組織と継続して協議を進める。

(2) 国産乳製品の販売推進

- ① 脱脂粉乳、バター及び液状乳製品の安定的販売
生乳需給に応じた継続的かつ安定的な脱脂粉乳、バター及び液状乳製品の供給を実施するとともに、会員及び関連乳業者等で需給上発生する乳製品を取り扱い、国産乳製品の需要を守るべく顧客のニーズに応える営業活動を進める。

併せて、販売拠点を消費地に集約し、効率的な販売体制を構築する。

② チーズ事業の安定

国産ナチュラルチーズ振興のため、国産チーズを利用したプロセスチーズの販売強化を進めるとともに、直営工場の安定的な製造数量確保のため、受託先との協調関係を強化し受託製造数量の維持・拡大を図る。

また、消費者のニーズに応える新商品

の開発及び既存商品の改良を一層進展させることにより販売数量の確保に努める。

(3) 乳製品工場における品質管理の強化と生産コストの低減

- ① 品質管理体制の強化
職員個々の品質管理に対する意識向上に努めるとともに、現場での品質管理・衛生管理を適正に機能させるべく、「品質リスクマネジメントを理解できる人材」の育成に取り組む。

- ② 生産コストの低減
人員配置の適正化及び機械化の推進等により、効率的な乳製品製造体制の構築に取り組む。また、工程内事故及び製造起因クレームの発生要因の徹底分析、再発防止策の構築などで、原料・資材ロス削減と製品歩留り率の向上を図る。

(4) 牛乳・乳製品の食育・消費拡大活動の実施

各地域で行われる牛乳・乳製品の食育・消費拡大活動に対し、酪農青年女性会議の活動を通して積極的に協力する。

(5) 生体牛の取扱いの強化

酪農家の貴重な収入源となる子牛や経産牛等の副産物について、積極的に取り

扱うとともに有利販売に努める。

4. 組織運営の効率化と財務体質の強化

(1) 共通管理機能の効率化

現業部門の業務活動をより充実させるための人員体制の見直しや共管部門の業務効率化について、具体的な検討を行う。

(2) 基幹システム安定稼働

基幹システム安定稼働のため、メーカー保守が終了する会計システムと経営情報分析(DWH)システムの更新を行う。

(3) 職員の育成

各部門協力の下、現場教育及び研修等を活用する等、職員育成のスピード化を図り、人材不足の改善に努めるとともに、各部門の適切な人員配置に努める。

(4) 財務基盤の強化

不稼働資産の売却と保有資産の効率的活用により自己資本の充実を図り、財務体質の強化に努める。

(5) 財務報告の適正開示

財務報告の信頼性確保に向け会計基準(変更等含む)に適正・的確に対応する。

(6) 子会社等との連携強化

全酪連グループ内の事業補完や移管などの事業効率化に積極的に取り組み、全酪連グループの事業価値向上に努める。

5. コンプライアンス経営の推進

(1) コンプライアンス経営の推進

各部室・所場は、コンプライアンス推進規則にのっとり、その推進に努める。また、コンプライアンス経営への意識を高めるため、職員の階層別研修や書籍及び教育用映像コンテンツ(DVD等)を利用し、事業関連法をはじめとするコンプライアンスに関する学習に取り組む。さらに、各部室・所場は、リスク・アセスメントに取り組む。

(2) 内部管理態勢の充実

全酪連グループ全体の事業目標達成とコンプライアンス経営推進のため、内部監査において業務内容をより的確に把握し業務改善の取組みを一層進めるとともに、情報セキュリティ対策を強化し、子会社を含めた内部管理態勢の充実を図る。

(3) 品質保証態勢の強化

① 全酪連の品質方針に基づき、品質事故

を未然に防止するため、内・外部品質監査で提示された指摘事項やクレームに対し、是正処置の確認や改善提案の提示を行い、現業部門に対する牽制機能を強化する。

② ISO9001の要求事項に準拠して

体系付けされている全酪連品質保証システムの継続的改善及び現業部門に対する教育訓練を充実し、強固な品質保証システムを構築する。

(1) 年度別売上高

(単位: 百万円)

	25 年度見込み	26 年度計画
酪農事業	11,862	11,763
購買事業	81,404	80,133
合計	93,266	91,896

(2) 年度別経常利益

(単位: 百万円)

年度	25 年度見込み	26 年度計画
経常利益	1,188	622

仙台
支所発

全国酪農青年女性会議元役員、飯舘村を訪問

東日本大震災の発生から3年目の節目となる3月11日(火)、全国酪農青年女性会議の元役員5名が、原発事故で全村避難を強いられている福島県飯舘村の元酪農家、菅野典雄村長を訪問しました。

メンバーは天島昭義さん(鳥取県)、白鳥小省吾さん(大分県)、白石晴治さん(北海道)、菊池洋一郎さん(茨城県)、松山秀夫さん(栃木県)の5名で、菅野村長とメンバーは、30年ほど前に全国酪農青年女性会議の役員として活動した仲間です。天島さん、白鳥さん、白石さんは震災があった2011年の夏にも菅野村長を訪ねており、今回が2回目の訪問となりました。

当日、菅野村長は業務の都合で昼は同席できず、夜からの合流となりました。メンバーは村長との再会に先立ち、飯舘村農業委員会菅野宗夫会長の案内で飯舘村村内を視察しました。除染作業の現状や、汚染土壌が入った山積みのフ



▲「祈」の色紙と

レコンバグなど、なかなか進まない復興の実態を目の当たりにし、改めて原発事故からの復興の厳しさを感じることができました。会長は「地震、津波は被災者の気持ちを一つにするが、原発事故は被災者の気持ちをバラバラにする」と、原発事故に対する対応の難しさを口にされました。また、「飯舘村の復興取組みを全国、全世界の人に見てもらい、二度とこのような事故を起こさないための事例として共有して欲しい」と、前向きに取り組んでいく強い姿勢が感じられました。

夜、福島市内で菅野村長と合流し懇談の場が始まりました。天島さんが「なかなかいい言葉が見つからないが、只々復興を願うばかりで、いつも頑張ってもらいたいという気持ちでいます」と励ましの言葉を伝えると、菅野村長は「全国

から酪友に集まってもらって本当にうれしい。思いもしなかった原発事故は本当に悔しいが、愚痴を言っても始まらない。様々な人からの励ましや思いやりなど、震災がなければ経験できなかったこともある。前を向き頑張るしかない。一生懸命復興に取り組んでいきます」と力強い言葉で応えられました。その後メンバーは、次の節目に再会する約束を取り付け、いつまでも昔話に花を咲かせていました。

(S.N)



▲菅野村長との懇談



▲除染現場視察

仙台
支所発

現代の婚活方法と婚活の心得

— 東北酪農専門団体協議会研修会 —

去る2月18日(火)、ホテル法華クラブ仙台(宮城県仙台市)にて、東北酪農専門団体協議会の研修会が開催されました。

冒頭、山形県酪農業協同組合代表理事組合長である原田陽一会長より、「後継者問題は昨今始まったことではないが、後継者がいたとしても結婚できずに本物の後継者になれない状況がみられる。組合・地域で取り組んでいてもなかなか成果があがらないようだ。今日は何か良いヒントが得られればと思い企画した」と挨拶がありました。

続いて、(株)エクシオジャパンブライダル情報センター新宿サロンチーフアドバイザーの堀田里奈氏の講演では、「全国の平均初婚年齢は年々上昇し、平成24年では男性30.8歳、女性29.2歳と、昭和40年と比較して男性で3.6歳、女性では4.7歳も上昇している。女性が独身でも生きていける社会に変わってきたことも大きい」とし、「生涯未婚率も、2%弱であった50年前に比べ、現在は男性で20%、女性でも10%を超えている。結婚しない自由を選択する人も増えているが、経済的理由で踏み込めないという人も増えている」と、社会状況の変化を説明しました。

人との付き合い方については「社交的な方、いろんなものに挑戦し多くの人と接触、付き合いのできる人は恋愛、結婚もできる。声をかけることができない人は、自分や相手が傷つくことを恐れていると考える人が多い。人との会話は慣れが大きいので、他人の話を聞くことや会話に交わることを練習することは必要。女性との会話の場が少ないと感じるのであれば、なお



▲ 会場の様子

さら地域のお見合いパーティーや婚活イベントなどを活用し、最初から相手を見つけようと意気込んで参加するのではなく、女性との会話を練習しようという気持ちで参加することは大いに結構」と説明。更に「婚活パーティーでは3分程度で相手が入り替わるので、20対20のパーティーであれば自分の話を20回繰り返すことになり、これだけでかなりの練習になる。また、相手の話を聞いてあげることも重要であり、そのような人は好感触を持たれる。『料理を作るのが好き』との話には、ただ『そうですか』と答えるだけでなく、『何が得意ですか』とか『毎日作りますか』『食べる方はいかがですか』などと話を膨らませられればなお良いですね」とのこと。

酪農家は世間が狭く女性と話題が続かないとの質問にも「専門知識は話せても女性との会話はどうも、という人はどの職業でも同じ。女性はもともと酪農に良いイメージを持っている人は多いので、牧場でパーティーを開き共通体験するなどは効果的なPR。酪農がどういう職業かを知ってもらえるような企画で情報を与えることが大切」と話されました。また、カップルになってもその後の進捗がみられない場合は、お節介にならない程度に様子を伺うことも必要とのこと。停滞気味なら第三者が先方に様子を尋ねることが、妙な行き違いを避けられる場合もあると話されました。

参加された皆さんは、いくつかヒントを持ってお帰りになられた様子でした。

(I.M)



▲ 原田陽一会長



▲ 講師の堀田 里奈氏

とってストレスが無く快適な環境で過ごす事がいかに大切かを改めて知り、酪農経営は転換期を迎え一気に花開きました。

「計画を立て、実行に移し、結果の検証を行い、次の行動に移る」と、良いと思ったことはとにかく挑戦してきました。多少経費が掛かっても、良い結果ができれば利益幅が広がるという考えを持ったからこそ現在の結果が出ていると話されていました。

牛乳の宅配を20年近く続け、現在は近隣72戸のお宅へ配達しています。消費者の考えがわかり、酪農家の顔や仕事も理解してもらえことから、今後も牛乳のPRや酪農業の理解醸成を訴え続けたいとのことでした。「酪農に関しては、ほとんど無知であった私たちにとって、ここまで続けられたのはやはり“酪農の魅力”があったからでしょう。一つ一つ目標を達成して感じる充足感。それらの積みかさねが今日の私たちの姿であり、これからも牛乳を通した人と

人との交流の中で、酪農仲間とともに良質牛乳の生産に励み、安全なおいしい牛乳を消費者に提供してまいります」と発表頂きました。

原発事故後、農家戸数が急激に減少し、追い打ちをかけるように高齢化や後継者不足という大きな壁が立ちはだかっている中、田中さんのように、福島の酪農復興に携わる重役として、新たな目標や夢を持ち続けて実現していく酪農への熱い思いや次世代へ伝えていく意思、浪岡さんのように常に目標を持ち続け、挑戦してよりよい酪農経営を目指す熱意ある姿や消費者とつながりを大切にする志など、福島県の酪農復興へならなくてはならないお2人は、我々酪友の心強い後押しとなります。

午後には、酪農講演会が開催され、全酪連購買部酪農生産指導室 丹戸靖課長代理より、「酪農経営戦略の構築」と題し講演頂き、盛会のうちに終了致しました。(W.H)

東京
支所発

「第9回関東ブラックアンドホワイトショー」 最優秀賞 受賞祝賀会を開催！

「第9回関東ブラックアンドホワイトショー」が平成25年11月13日(火)に茨城県中央家畜市場（小美玉市竹原）にて開催されました。当日は、天候にも恵まれ多数の参加者が集まり、第1部から第11部までの出品頭数は132頭でした。

審査はクラックホルム・ホルスタイン牧場のデイビット・クラック氏が行い、グランドチャ

ンピオンには東京都酪農業協同組合の北島 隆さんの出品した「エヌアイファーム エルミサー ジャクス ロイ」（4才以上5才未満経産牛の部）が選ばれました。この受賞を祝う受賞祝賀会が立川グランドホテルで平成26年2月4日(火)に開催され、多数の参加者にて盛大に祝賀会が開催されました。今後のご活躍をお祈りいたします。(S.T)

エヌアイファーム
エルミサー
ジャクス
ロイ
関東B&W・G・C



受賞祝賀会の様子 ▶

◀ 北島さん夫妻



福島県酪農協より

福島県酪農青年研究連盟主催 「第61回酪農発表大会・酪農講演会」を開催!!

福島県酪農青年研究連盟（鈴木正隆会長）が主催する「第61回酪農発表大会・酪農講演会」が2月21日（金）福島県農業総合センター（郡山市日和田町）にて、会員・関係者74名に参加頂き、開催されました。福島県酪農青年研究連盟 鈴木正隆会長より開会挨拶が行われた後、福島県農林水産部畜産課 二瓶卓課長、福島県酪農協 但野忠義代表理事組合長より来賓祝辞を頂き、発表に入りました。

■意見・体験の部

「Show Must Go On」

浜酪農青年研究会 田中 一正 氏

田中一正さんは、飯舘村へ入植10年目に東日本大震災が発生。東京電力福島第一原子力発電所事故に伴い全村避難となり、明日への不安と将来への絶望しかない中で、せめてもの救いとしては、移動制限解除により約半数の牛を酪友に託すことができたことでした。『飯舘から離れたとしても、夢を持って入植した時のように、どこに行っても一生懸命頑張ってみよう!』と誓いました。

震災直後に山形の牧場で働き、そこでの出会いが新たな勇気と励みを与えてくれました。その後、福島から復興牧場でのも場長就任の打診があったことで、今もなお苦境に立たされている福島の酪友の顔が頭をよぎり、“彼らとまた一緒に苦楽を共にし福島を盛り上げたい”との気持ちから福島に戻る決心をしました。



▲ 左から泉氏（代理発表）と田中氏



▲ 会場の様子

平成24年5月、
ミネロファームの

牧場長として福島の復興を目指すこととなり、8月に牛が牛舎に到着した時は、「ようやくスタートラインに立つことができた!」と、胸の高鳴りを抑えられなかったそうです。

特にやりがいを感じているのが、学生のインターンシップ受け入れなどを通して、酪農の楽しさだけではなく厳しさも体感してもらうこと。「酪農業の現状と未来への展望を語り、彼らと共に日本の酪農を発展させていきたい」と語っておられました。

自身の牧場を離れ、一旦は全てを失ったかに思いましたが、実は大切なものは何一つ失っていないことに気がきました。いままで培った技術、経験、何よりも牛を通じた仲間との信頼関係が財産であり、自分自身の人生をより豊かに納得して一生懸命生きることが本質だと思い、これからも使命感を持ち、続けていきたいと発表を締めくくりました。

■経営の部

「わが人生一つ一つのつまかさね

～酪農と消費者を結ぶ白い牛乳～」

県北酪農研究会 浪岡 泰博 氏

続いて、県北酪農研究会 浪岡泰博さんに発表頂く予定でしたが、豪雪被害の影響で牛舎修繕作業により欠席されたため、県北酪農研究会事務局 泉巧さんが代理発表しました。

浪岡さんは、大学卒業後に就職しましたが、仕事に魅力を感じられず半年で退社。その後、当時の県畜産課長から勧められ、十勝清水町の農家で1年間実習生として過ごし、見よう見まねで酪農の基本を一から修得しました。

昭和49年に結婚、翌年5月に兄から数頭を譲り受け経営がスタートし、“夢と希望”を持ち取り組む酪農経営はスムーズにはいかない中、平成16年に県の改良普及員と出会い、乳牛に

本所発

(一社)全国酪農協会主催 酪農後継者が集う「酪農未来塾」を9月に続き開催!!

3月6日(木)～7日(金)、東京都港区南青山会館にて(一社)全国酪農協会主催の「酪農未来塾」が昨年9月に続いて開催されました。今回の研修では、前回の参加者を中心に全国の酪農後継者・酪農団体など70名が参加しました。冒頭では(一社)全国酪農協会 馬瀬口弘志会長から「農業のあり方が問われている中で、酪農業が果たす役割は経済活動のみならず、地域・環境面でも大きい。ビジョンがないところに発展はない。今回の酪農未来塾を通じて日本酪農の将来へのビジョンを持ってもらい、発展へとつなげてほしい」と挨拶がありました。今回は、株式会社長嶋代表取締役の長嶋透さんと農事組合法人新利根協同農学塾農場の上野裕さんを講師に迎えて、お2人が取り組まれている活動についての紹介がありました。長嶋さんは「都府県での自給飼料確保のカギ～耕畜連携による稲WCS拡大～」と題し、千葉県香取市で取り組まれている自給飼料生産のための耕畜連携農業について報告をされ、上野さんは「乳と蜜の流れる地プロジェクト」と題し、茨城県稲敷市で

実践されている放牧酪農について報告されました。その後は前回に引き続き、農場どないすんねん研究会(NDK、正式名称：全国畜産支援研究会)が進行を務めるワークショップへと移り、「親とのコミュニケーションの取り方」「仲間の作り方」などといった内容ごとに活発な議論がなされました。

2日目は森税務会計事務所の森剛一税理士による講演「酪農家が気を付けたい経営管理と税金」が行われた後、2回目のワークショップが開催され、4名ずつのグループに分かれて、「初日の意見交換で心に残った言葉」をメモしたカードを提示しながら意見交換を行い、自分の夢や目標、そのことを達成するための具体的な行動を「酪農未来宣言」として作成しました。「酪農未来宣言」は、最後に一人ひとりが全員の前で発表をし、最高潮の盛り上がりを迎える中、1泊2日の研修会は終了となりました。来年度も「酪農未来塾」は開催が予定されており、開催日等は運営委員会で検討される予定となっています。(O.H)



▲ 馬瀬口会長



▲ 長嶋 透 氏



▲ 上野 裕 氏



▲ 議論風景



記念撮影 ▶

本所発

「第8回 JAグループ国産農畜産物商談会」にて 本会乳製品を紹介!

3月12日(水)～13日(木)に東京国際フォーラムにおいて、JA全農、JAバンク、JA全中主催による「第8回JAグループ国産農畜産物商談会」が開催されました。全国のJAグループ・関連団体など約150団体が出展し、全国の国産農畜産物との出会いの場となりました。

本会も第1回から毎年ブースを出展。酪農家チーズをリニューアルすることで、より手に取ってもらいやすくなったほか、定番のスモークチーズも人気があり、来場者からは好評のお言葉を頂くことができました。各社のチーズは容量変更を含む実質値上げを行うなど乳製品には厳しい状況ではありますが、今後も変わらぬご愛顧をよろしくお願いいたします。

(K.S)



◀ ブースは盛況でした

乳製品ラインナップ ▶



◀ 乳製品のPRを牛の模型が見守る

本所発

「第27回農山漁村女性の日記念の集い」が 開催される

3月6日(木)、浅草公会堂において、第27回「農山漁村女性の日」記念の集いが開催されました。この集いは、毎年3月10日の「農山漁村女性の日」に合わせ、農山漁村女性の役割を正しく認識し、適正な評価への気運を高め、女性の能力の一層の活用を促進することを目的として開催されており、全国酪農青年女性会議は主催団体の一つとして参加しています。今年は「農山漁村から伝えよう、わたしたちの想い」と題し、受賞者・来賓を含む農業関係者約650名が参加しました。

農山漁村女性・シニア活動表彰、農山漁村男



▲ 全国酪農青年引頭副委員長



会場の様子 ▶

女共同参画優良活動表彰の賞状授与及び活動報告の後、山形ガールズ農場代表 高橋菜穂子さん、石川県若手女性農業者 高博子さん、大分県ベテラン女性農業者 和泉やす子さんの3名を迎え「世代を超えて、農山漁村の未来を描く」と題したパネルディスカッションが行われました。女性ならではの不安や想い、性別に関わらず適材適所で人材配置を行うことの大切さや、妊娠・出産を盛り込んだ経営計画を立てる重要性など、芯が強いながらも凛とした意見に聴講者は終始納得の表情でした。

最後に全国酪農青年女性会議の引頭副委員長が、女性の社会参画の一層の促進や女性農林漁業者の声の発信など6項目を宣言し、盛会のうちに終了しました。

(K.S)

名古屋
支所発

中部代表は渡会智花さん・宮下優子さんに決定！ — 第43回中部酪農発表大会開催 —

3月18日(火)～19日(水)に中部酪農青年女性会議（大井幸男委員長）主催の「第43回中部酪農青年女性酪農発表大会」が愛知県豊橋市「ロワジュールホテル豊橋」にて開催され、酪農家及び関係者約140名が集いました。

久保田豊副委員長の開会宣言の後、参加者全員で統一綱領を唱和し幕を開けました。大井委員長の主催者挨拶に続き、来賓の農林水産省東海農政局生産部 西元薫畜産課長、愛知県農林水産部 石黒慶三畜産課長、愛知県酪農農業協同組合 杉浦弘泰代表理事組合長からのご祝辞を頂きました。

経営発表の部は、『愛知で北海道～キャベツ産地で粗飼料自給率100%～』と題した渡会智花さん（愛知県）の1名だけではありませんでしたが、優秀な経営内容が発表され最優秀賞に選出されました。

意見・体験発表の部では、宮下優子さん（愛知県）、臼井貴子さん（岐阜県）、田嶋美穂さん（三重県）の3名の発表が行われ、審査は、各県会議より推薦された酪農家11名の審査員によって行なわれました。審査の結果、『これから酪農を継ぐ人たちに』と題した宮下優子さんが最優秀賞に選出されました。

大会終了後の懇親会では、三味線グループ『輪』の演奏や中部酪農青年女性会議役員有志による歌とダンス、そして恒例となったお楽しみ抽選会等、盛り沢山の余興で盛り上がり、酪友相互の懇親を深めました。

なお、渡会さんと宮下さんは7月17日(木)～18日(金)に仙台市で開催される全国酪農青年女性会議主催の「第43回全国酪農発表大会」に中部代表として出場することになります。

(O.M)



▲ 大井委員長挨拶



▲ 経営 渡会智花さん



▲ 意見 宮下優子さん



▲ 大会会場



▲ 懇親会

大阪
支所発

「平成25年度徳島県酪農衛生対策セミナー」 開催される

(公社)徳島県畜産協会は、徳島県酪農協と共催で2月25日(火)に「平成25年度酪農衛生対策セミナー」を吉野川市のセントラルホテル鴨島にて開催しました。当日は、徳島県酪協の組合員をはじめ行政関係者等併せて約60名が参加し、獣医師の梅原健治氏の「酪農生産現場における衛生管理手法の確立」と題した講演に聞き入りました。

現在は、言うまでもなく安全安心な食品が求められており、牛乳乳製品に関しては、酪農家は食品関連事業者と位置付けられて原料となる生乳を生産・供給しています。食品加工におけるHACCPによる工程管理が一般化しており、酪農現場では[農場HACCP]により管理された生産体制がより重要になってきています。全国的には、未だ2例しか農場HACCP認定取得農場はありませんが、申請中の農場の件数は急増しています。

梅原講師は、管理の要点として乳房炎等の原因菌の種類や由来、有効な殺菌方法、また耐熱性菌の汚染要因を解説し、環境からの汚染と搾乳機器からの汚染に分類して、削減ポイントをわかりやすく説明されました。特に、衛生的な



▲ 熱弁の梅原講師



▲ 熱心に聞き入る受講者



▲ 清拭デモンストレーション



▲ 清拭効果のデモ

乳頭の清拭方法についてデモンストレーションを交え示し、参加者が注意深く視線を注いでいました。講師が所属する研究所が開発した特殊なタオルと一般のタオルを使った時の汚れ除去率の違いも示し、その有用性を強調されていました。

また、牛舎自体の消毒の効果の話に移り、帯広市で取り組んでいるドロマイト石灰塗布の事例を紹介し、これら全部の取組みが当たり前のこととなり食の安全安心がスタートすると講演を締めくくりました。

質疑応答では、まさに乳房炎対策に取り組んでいる若手酪農家から切実な質問が出され、講師と熱の入った議論が展開されました。

長時間に渡った講演ではありましたが、参加した酪農家には充実したセミナーとなったことと思います。

(S.T)

飛騨酪農協より

グループ紹介 「飛騨楽ファーマーズ」

飛騨酪農農業協同組合（組合員数27戸）管内における酪農家（武藤晃子リーダー）と組合とが一体となり活動を開始し、好評を得ている「飛騨楽ファーマーズ」の活動についてご紹介します。

この活動は「簿記をきっかけにみんなで楽しく集まろう！」を合言葉に、酪農に携わる人たちを集め、酪農に関する情報交換や酪農経営全般にわたる諸問題等への対応について、話をする場を作ることを目的としています。

具体的には月1回程度の勉強会を開催し、DMS（e酪農経営ソフト）を利用した「簿記入力会」「簿記申告準備」「交流会」等が実施されています。「酪農家と組合職員が集まる場が出来て、とてもいいですね。なんか元気が出てきますよ」となかなか好評です。現在、酪農家7戸

所在地：高山市新宮町3369番地

飛騨酪農農業協同組合（馬瀬口弘志代表理事組合長）内

TEL：0577-32-0208

発 足：平成25年11月8日

役員構成：[リーダー]武藤 晃子、[会計]嶋田 佳子、
[書記]野添 道子、長瀬 和仁

の参加ではありますが、今後は組合全戸の参加を目標にさらに活動を広めたいと考えています。

今後も酪農家と組合が一体となった活動により、これ以上酪農家を減らさないための「仲間づくり」を大切にする取り組み姿勢が感じられます。今後も、酪農家の皆さんの意見を取り入れながら、継続的に酪農経営を維持できるよう、このような活動がさらに充実されることが期待されます。

【活動経過】

平成25年

- 11月 発足会、座談会
- 12月 簿記入力会

平成26年

- 1月 簿記入力会
- 2月 簿記申告準備
- 3月 簿記申告、交流会

福岡
支所発

「第57回 佐賀県酪農婦人の集い」開催される！

去る2月21日(金)、佐賀県酪農婦人部連絡協議会（川久保美代子会長）、JA佐賀畜産振興協議会（中野吉實会長）主催の「第57回佐賀県酪農婦人の集い」が、佐賀市「マリトピア」において、約90名の酪農婦人及び関係者が参加し開催されました。

まず始めに、婦人部の皆さんが中心になって乳質改善、牛舎周辺の環境美化等に取り組まれていることから、乳質改善共励会、生乳需要期増産表彰、牛群高能力表彰、牧場花いっぱいコンクールの表彰式が行われました。

次に、「体験発表」が行われ、「牛飼いのメモリー」と題して鹿島市の塚島信子さんが発表されました。そして最後に、佐賀県酪農婦人部連絡協議会原口副会長より「婦人の集い宣言」が読み



意見発表



小山先生講演

上げられ、会場から大きな拍手をもって採択されました。

午後からは講演会が開催されました。今回は料理家・管理栄養士の小山浩子先生をお招きし「牛乳と和食のしあわせな出会い 栄養と健康レシピ」と題して講演を頂きました。先生の著書「目からウロコのおいしい減塩乳和食」に掲載されているレシピも交え、牛乳の持つ旨味、そして特性を活かすことによって、無理なく、そして美味しく減塩が出来るというお話に、参加者の皆さんは真剣に聞き入っていました。

佐賀県の酪農を支える女性のパワー、そして57回という歴史を感じるすばらしい催しでした。

(Y.K)



左から誉史くん、登さん、宗生さん、美恵子さん、雅さん ▲

No.251

柴山宗生牧場
群馬県高崎市

家族経営を支える 洗練された管理技術

地域の概況

今回紹介します柴山宗生牧場は、群馬県の中西部に位置する高崎市にて酪農を営んでいます。高崎市は平成の大合併により、群馬県最大の都市となっています。また、関越自動車道と北関東自動車道の分岐点、上越新幹線と長野新幹線の分岐点となっており交通の主要都市となっています。高崎といえば『上州だるま』、日本一のだるまの生産地であり生産量は全国シェアの80%を誇っています。選挙の当選シーンでよくみられるだるまのほとんどが高崎産だそうです。

柴山牧場が所在する上室田町は標高約500m、上毛三山（赤城山、妙義山、榛名山）の1つである榛名山の麓にあり、榛名酪連管内でも有数の酪農生産地です。

柴山牧場が所属する榛名酪農業協同組合連合会（森澤隆代表理事会長）は生乳出荷戸数43戸、出荷乳量14,575t（平成24年度実績）です。

経営概況

柴山牧場は家族経営で経営主である宗生さん（48）、奥様の美恵子さん（46）で飼養管理全般を行い、お父様の登さん（77）が哺育および堆肥処理、販売を行っています。柴山牧場の家族構成は、お母様の志津子さん（74）、長男の天志くん（15）、長女の雅さん（14）、次男の誉史くん（12）です。飼養頭数は経産牛90頭、未經産の導入牛10頭で自家育成は行っておりません。飼料はすべて購入飼料で、ミックスタイプの配合飼料とカナダ産チモシーを分離給与しています。柴山牧場の平成24年度の出荷乳量実績は965tとなっています。



牧場の沿革

柴山牧場は昭和36年にお父様の登さんが親戚の奨めで2頭の搾乳素牛を購入したことに始まります。元々は野菜の栽培と豚2頭を飼育して繁殖を行っていました。野菜はインゲン、キュウリ、レタスを栽培して東京に出荷していたそうです。当時、レタスは珍しく認知度は低く、地元ではほとんど売れなかったそうですが、その後、認知されるとともに高値で取引されるようになったそうです。先見の明があり、当時から経営センスの高さが覗えます。その後、酪農業に専念され、東京オリンピックが開催された昭和39年に16頭の繋



搾乳牛舎



乾乳牛舎

ぎ牛舎を建設、その3年後に36頭牛舎に増築、昭和53年には現在の牛舎がある場所に50頭牛舎を建設と順調に規模を拡大していきました。当時の柴山牧場をよく知る酪連職員の方によると、当時から牛の管理技術が高く、柴山牧場はかなり乳量が出ているから見に行ってみよう、と多くの農家が視察に来ていたそうです。

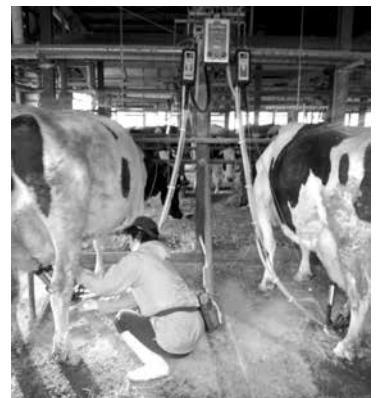
宗生さんが就農したのが平成10年のことです。宗生さんはそれまで県内で会社勤めをしていましたが、お母様の志津子さんが体調を

崩して酪農に従事することができなくなったことをきっかけに、酪農を継ぐ決意をしたそうです。そして、平成12年に現在の80頭牛舎へ増築、平成17年には乾乳牛舎を新築しました。登さんから宗生さんへと経営移譲したのは平成13年のことです。

飼養管理

先述のとおり、柴山牧場は家族経営で従業員の雇用はありません。労働力と施設の関係もあり、自家育成は行っていないません。牛は本会経由で定期的に北海道から導入しています。種はすべて和牛を授精し、産まれたF1牛は55日齢前後で地元の市場に出荷しています。

家族の労働力だけで十分な管理を行えるようにという考えで、平成12年に牛舎を増築した際に自動給餌機を導入、平成24年にはキャリロボを導入しました。将来は子どもが後を継いでくれればよいが、継がずに今後夫婦2人で続けるとしても、少しでも長く酪農ができるようにと考えた上で導入を



キャリロボを使用した搾乳風景

決意したとのことでした。柴山牧場は常時80頭の搾乳を夫婦2人で行っていますが、作業負担がかなり軽減されたそうで、特にユニットの持ち運びが無くなったことでだいぶ楽になったとのことでした。

柴山牧場の飼養管理方法は特徴的です。給与メニューについては、飼料内容は、ミックスタイプの配合飼料とカナダ産チモシーと一部添加剤のみです。内容はシンプルですが、自動給餌機（9回／日）の給与量の設定は基本的に毎日行い、個体管理にはしっかりと時間をかけています。特にフレッシュ期と泌乳後期の給与量は、牛の状態を確認した上で設定を行っています。粗飼料について、カナダ産チモシーは採食量維持・



乾草倉庫

繁殖管理

向上、引き込み防止のために6回に分けて給与し、牛の状態を小まめにチェックしています。

取材時に宗生さんは「うちはあまり難しいことはやらずにシンプルで管理をこころがけています」と仰っていました。このシンプルが意味するものは、ただ単純にということではなく、無理・無駄の無い洗練されたものに感じました。

繁殖管理について、常に月間8頭の分娩が確保できるように管理

を行っています。もし、分娩予定牛が8頭に満たない場合は、不足分を北海道から導入し、必ず8頭／月は分娩するように調整しています。

管理に関しては、自前で作成した個体管理棚により、誰が見ても一目で個体の状況がわかるように工夫がされています。自分だけでなく、獣医・授精師の方にも分かりやすく、円滑な業務遂行に一役買っています。この棚についてですが、会社勤めの頃に採用されていた、オープンファイリングシステムから発想したそうです。（オープンファイリングシステムとは、棚の中が見えるようにすることで誰が見ても分かる、誰でも使いやすいようにする手法）「管理棚を探したが売っていないだったので作った」と宗生さんの発想力と器用さが覗えます。

堆肥販売について

堆肥処理は、登さんが管理を行っています。堆肥は地元の果樹園農家や畑作農家への販売および、袋詰めしたものを地元農協の

直売所で『はるな一番』の製品名で販売しています。

柴山牧場は、現在、畑は作っておらず、堆肥は全て販売によって処理しています。柴山牧場の堆肥は良質との評判で、地元農協の直売所で年間3,000袋売れているそうです。

今後の目標について

「家族経営と今の施設を考えると頭数は増やせないの、1頭当たりの生産性を上げて年間1,000tを割らないようにしたい。また、メガ・ギガファームには及ばないが、家族経営の中でのトップを目指していきたい」と熱意を語っていただきました。

おわりに

確定申告作業の忙しい中、快く

▲▲ 個体管理棚



取材を引き受けてくださいました柴山牧場の皆様に、心より御礼申し上げます。訪問時は大抵牛舎にいて、牛の管理をしている宗生さんが印象的で、こうした確かな個体管理技術と洗練されたシンプルな飼養管理がうまく噛み合っていることが優良経営につながっているのだと実感しました。

最後になりましたが、今後とも、柴山牧場の更なるご発展とますますのご活躍をお祈り申し上げます。

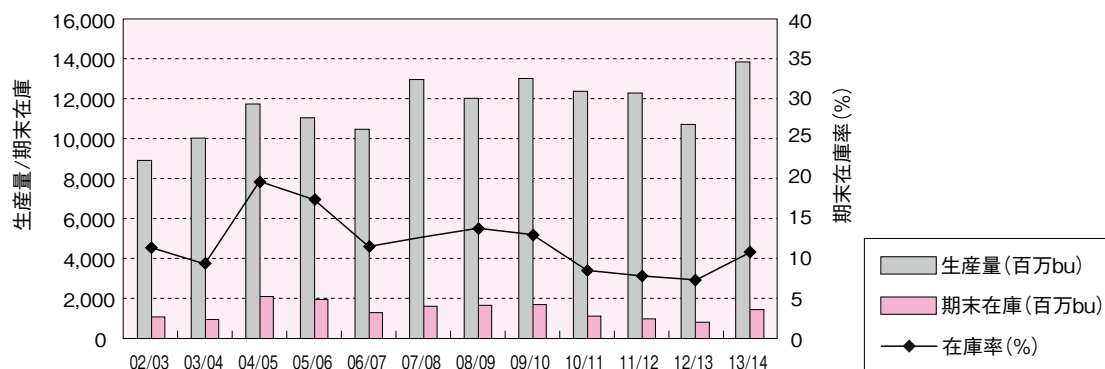


原料情勢

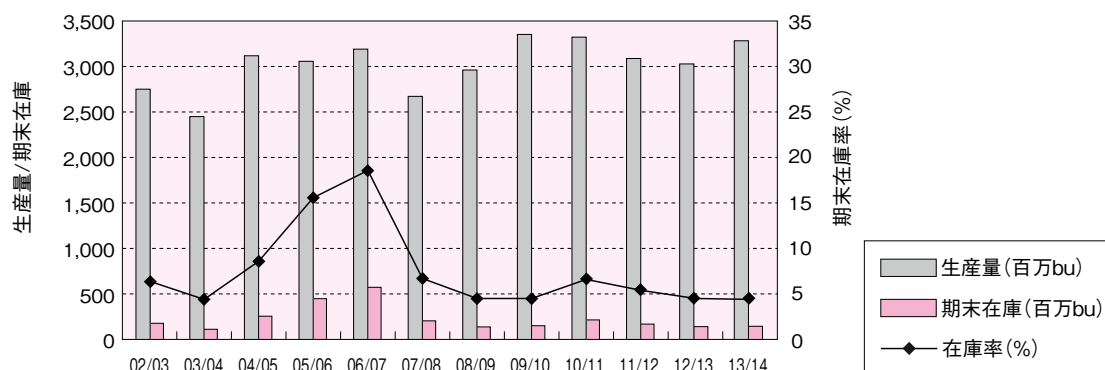
平成26年3月

3月10日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	【12/13年産】 作付面積97.2百万(前月97.2百万) エーカー、単収123.4 (123.4) bu/ エーカー、生産量107億8,000万 (107億8,000万) bu、総需要量111億1,100万 (111億1,100万) bu、期末在庫8億2,100万 (8億2,100万) bu、在庫率7.4 (7.4) %。 【13/14年産】 作付面積95.4百万(前月95.4百万) エーカー、単収158.8 (158.8) bu/ エーカー、生産量139億2,500万 (139億2,500万) bu、総需要量133億2,500万 (133億) bu、期末在庫14億5,600万 (14億8,100万) bu、在庫率10.9(11.1)%。
トウモロコシ 相場動向	2月以降じわじわ値を上げていたシカゴ相場だが、ウクライナの情勢不安によりウクライナ産トウモロコシの輸出が停滞するとの見方から、490¢台まで値を切り上げた。その後もウクライナ情勢により値を上げ下げしたが、ブラジルのトウモロコシ減産の懸念やエタノール在庫率の減少等に支えられ、現在は480¢台で堅調に推移している。今後も、ウクライナ情勢不安の影響により値動きが荒くなる可能性もあり、注意が必要。
国内産大豆粕	米国産大豆需給予想の13/14年見通しは、供給量・需要量が同程度増加し、期末在庫見通しは1億4,500万 (1億5,000万) bu、在庫率4.4 (4.5) %と前月とほぼ変わらない結果となった。シカゴ大豆相場は、南米の天候不順や中国の契約問題、世界的な蛋白原料への需要の高まりから価格は上昇している。国産大豆粕発生量は低位安定だが、それをフォローしてきた輸入に関して、メインの輸入元である中国で搾油の採算悪化による価格が上昇している。また需給のひっ迫もあり、今後は強含みの展開が予想される。
糟糖類	国産フスマ発生量は昨年11月に小麦粉の価格上昇の影響を受け減少。また1-3月期のフスマ価格の値下げにより需要は堅調で一部の地域では受け渡しが綱渡りとなっている。グルテンフィードの国内発生量は例年通りだが、国内輸送船不足から一部輸入品に置き換えて対応している。今後は発生期を迎えることや配合割合の減少から、需給は若干緩む見込。輸入品の入船は順調だが、高値で推移している。
海上運賃	南米新穀の積出し需要があり、船舶の余剰感はなくなり海上運賃は横ばいで推移。今後もブラジルの大豆輸出の増加や中国・インドの石炭需要が堅調であることから、底堅く推移する見込。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



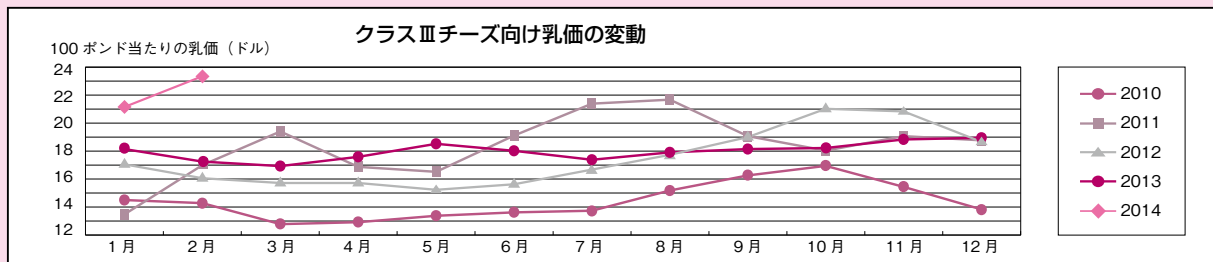
米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢

平成26年3月

北米コンテナ船フレート	1-3月のBAF（燃料調整係数）は\$10の値下げが実施されたが、4-6月には\$5の値上げを発表している。3月からのGRI（基礎レート）値上げ予定は、大半の会社が延期している模様。どの船会社もコンテナ部門の採算悪化が続いており、今後も海上運賃は強含みの予想。北米西海岸の各地で降雨や降雪が続いており、コンテナ搬入の遅れが発生している。特にPNWのシアトル港やポートランド港では空コンテナが不足していることもあり、注意が必要。
米国の乳価動向	乳製品の相場価格が堅調に推移していることを背景に、米国の乳価は1980年以降“史上最高値”で推移しており、14年2月は100ポンドあたり\$23を超える水準（下段参照）。輸出向けアルファルファの産地価格・情勢にも大きな影響を与えることは間違いないと思われる。
ビートパルプ	【米国産】砂糖の相場価格が低調に推移しており、かつ作付の遅れによる単収減が予想されることから、13年産の作付面積・生産量は前年比5%減の見込み。生産量が減少している欧州からの引合いも強く、産地価格は堅調に推移している。昨年末からの大寒波により、積出し港への搬入が大幅に遅れ始めており、デリバリーの混乱に注意が必要。 【中国産】13年産の作付面積は12年産より減少している。国内向けの需要がさらに増えることが予想されており、韓国と日本向けの輸出数量は限定的になる見込み。他産地ほど生産量が減少していない米国産へ切り替えることも有益と思われる。
アルファルファ	13年産は、どの産地も雨当たり被害を受け、例年では考えられないような悪い作柄となった。カリフォルニア州中央部とネバダ州北西部周辺での干ばつにより、放牧用牧草の生育にも影響が出ている。そのため、PSW産を中心に、昨年同時期と比較して1～2割も高騰している。価格のみならず、北カリフォルニア産の作付面積や生産量への影響も懸念される。米国産の輸出量は1位のUAEと2位の中国向けを合わせると6割強を占めており、主導権は両国が握っていると言える状況。14年産以降もさらに両国の輸出量は増加する見込みであり、かつサウジアラビア向けにも本格的に船積みが始まるとも言われており、注意が必要。
チモシー	【米国産】主産地のコロンビアベースンとエレンズバーグでは、1番刈収穫時期の6月中下旬にあった降雨の影響で8～9割の雨当たり被害が発生し、“史上最悪な厳しい作柄”となった。また、10月出港分から屋内くん蒸費用を加算しており、費用対効果のある価格帯ではなくなっているため、他草種への移行も視野に入れる必要があると思われる。作柄の良し悪しに係わらず生産コストに対し高く売れており、14年産の作付面積はさらに増えることが早くも見込まれている。 【カナダ産】主産地のレスブリッジとクレモナ（アルバータ州中央部）では収穫時期に降雨があり、ハイグレード品の発生は限定的。カナダ産も作柄は悪く、産地価格は手の届かないところまで高騰している。米国産同様に他草種への移行を検討する必要があると思われる。生産コストに対して高く売れており、小麦やキャノーラなどの穀類の相場価格が一時期に比べ軟化していることから、14年産の作付面積は増えることが予想されている。
スーダン	【インベリアルバレー産】茎細のプレミアム品や、きれいなスタックの発生が少なかったことから、13年産は茶葉混入が目立つローグレード品以外は、ほぼ売切れの模様。産地価格についても、引き続き強含みで推移している。デュラム小麦価格が軟調に推移していることから、産地では小麦の作付面積が前年比66%にまで減少しており、早播きスーダングラスの作付面積が増える予想される。しかし、農業用水の使用制限懸念により作付面積がそれほど増えないとも予想されており、14年産の作付面積の発表が注目されている。
クレイングラス	インベリアルバレーの2/15時点での作付面積は前年対比106%。生育期と収穫時期に暑い時期が続いたことにより、良品の発生が多い作柄となった。産地価格は、韓国向けの引合いが弱めに推移していたことも受け、前年よりも少し軟化している。科本科牧草の中では割安感もあるため、チモシーやスーダングラスからの切り替えも有益であると思われる。スーダングラス同様に農業用水の使用制限について実施強化も懸念される一方、クレイングラスは多年草で刈取回数も多いことから、生産コストに対して収入が安定しているとの考えられるため、14年産作付面積の推移は予想が難しくなっている。
オーツヘイ	13年産は、どの産地も11月までに収穫が終了。雨当たり被害はあるものの大半が軽い雨で済んでいるため、ハイグレード品は限定的で、見た目がきれいなローグレード品が多く発生している。どの産地も生育中にも降雨が十分にあったため、単収は例年より多いものの、雨に当たっていないスタックでも分析値はあまり良くない傾向。ハイグレード品の価格は強含みで推移しているものの、中間・ローグレードの価格は弱含みで推移している模様。豪州ドルの動向次第だが、チモシーやスーダングラスから切り替えて使用することも有益であると思われる。



生乳受託販売乳量

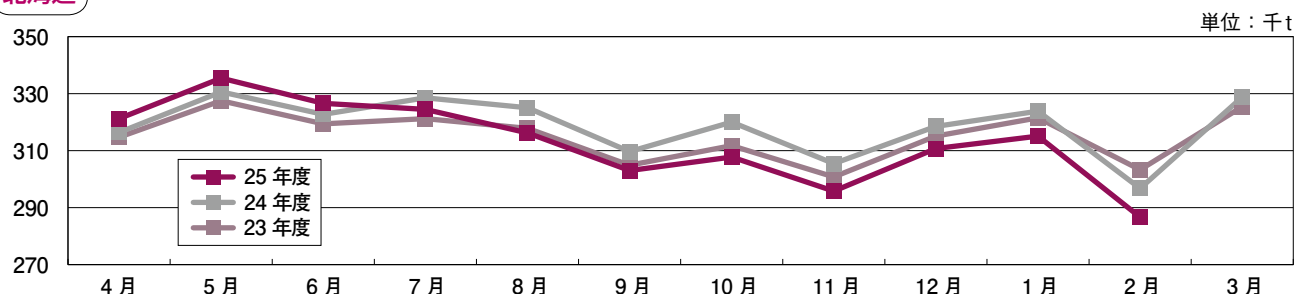
受託販売乳量

全国 552,170t で、前年同月比 **20,160t(3.5%) 減少**

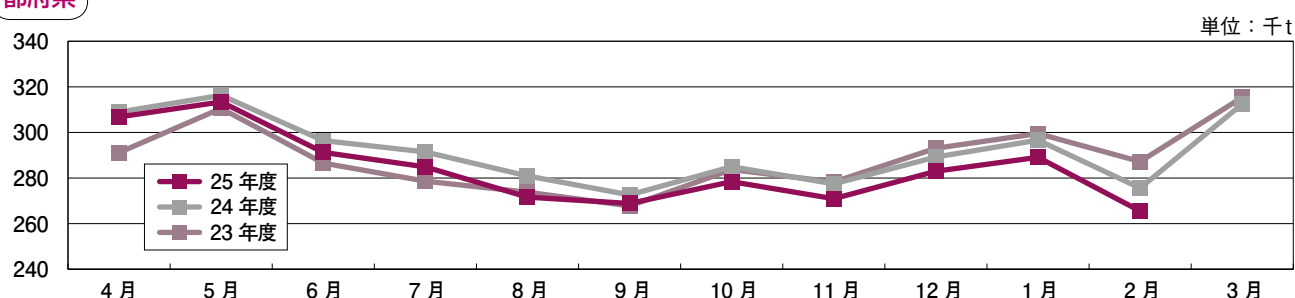
都府県 265,515t で、前年同月比 **10,061t(3.7%) 減少**

北海道 286,655t で、前年同月比 **10,099t(3.4%) 減少**

北海道



都府県



用途別販売数量

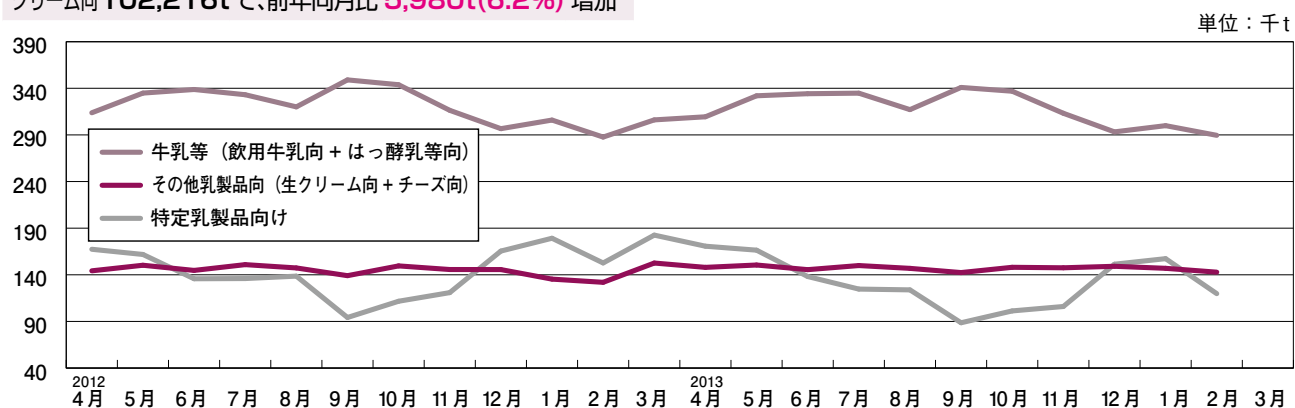
飲用向 253,046t で、前年同月比 **1,781t(0.7%) 増加**

はっ酵乳向 36,508t で、前年同月比 **88t(0.2%) 増加**

クリーム向 102,216t で、前年同月比 **5,980t(6.2%) 増加**

チーズ向 40,610t で、前年同月比 **4,899t(13.7%) 増加**

特定乳製品向 119,788t で、前年同月比 **32,907t(21.6%) 減少**



各地の需給動向

*前年比については、閏年修正を行っておりませんのでご注意ください。

【仙台】2月の生産は前年比 95.8%。1月と比較し、日量は増加しているが大きく前年を下回った。一方で需要は引き続き堅調。飲用牛乳向けは 106.0%、特定乳製品向けは 62.4% となった。

【関東】生産はほぼ計画通りに推移していたが、中旬の大雪により 1,500t ほど廃棄乳が発生した為、2月計では 95.5% となった。需要も、上旬は好調に推移していたものの、大雪の影響で配送も含め大幅に混乱したため、飲用牛乳向け 100.2%、特定乳製品向け 68.7% となった。

【東海】生産は中旬に少し減少していたが、下旬は回復基調。トータルでは前年比 97.0% となった。処理は、飲用牛乳向け 98.8%、特定乳製品向け 66.9% となった。

【近畿・中国・四国】生産量は全体的に緩やかな伸び（近畿 96.1%、中国 96.4%、四国 96.4%）。一方処理は、順調で安定的であった。（飲用牛乳向け前年比：近畿 97.3%、中国 95.0%、四国 101.5%）

【九州】生産は当初見込みより上振れし、前年比 98.0% となった。処理は、上旬気候に恵まれた影響もあってか増加。中下旬も堅調に推移した結果、飲用牛乳向け 99.6%、特定乳製品向け 84.3% となった。

用途別生乳処理量

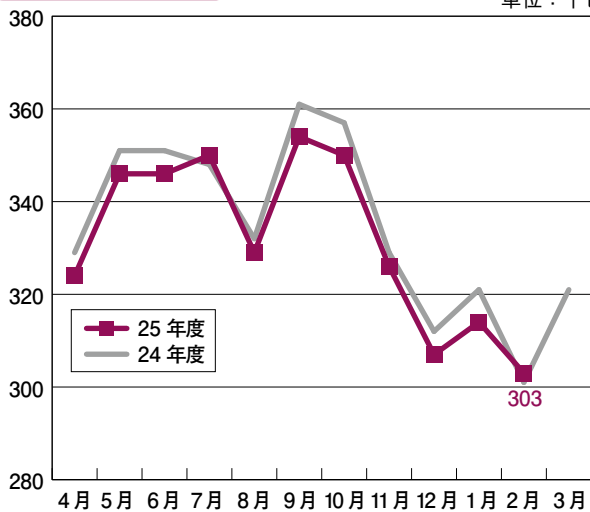
単位：千t

年月	生乳生産量	用途別処理量計							
				乳製品向					
				牛乳等向 ①	特 定 乳製品向 ②	その他乳製品向			
		クリーム向 ③	チーズ向 ④						
2012. 4月	649	645	329	316	169	147	106	42	
5月	671	667	351	316	164	152	108	45	
6月	642	637	351	286	139	147	106	41	
7月	644	639	348	291	139	153	111	42	
8月	630	625	332	293	143	149	107	43	
9月	604	599	361	238	98	140	106	34	
10月	628	623	357	266	115	151	111	40	
11月	605	600	329	271	123	147	109	39	
12月	632	627	312	315	167	148	108	40	
2013. 1月	644	639	321	319	181	138	96	42	
2月	595	590	301	289	155	134	96	38	
3月	664	660	321	339	185	155	113	41	
年度計	7,608	7,550	4,012	3,538	1,777	1,761	1,276	485	
2013. 4月	650	645	324	321	171	150	106	44	
5月	671	666	346	320	167	153	107	46	
6月	638	633	346	287	141	147	105	42	
7月	632	627	350	278	126	151	109	42	
8月	608	603	329	274	127	147	107	40	
9月	593	588	354	235	91	144	107	37	
10月	608	604	350	253	104	150	109	40	
11月	588	583	326	257	108	149	111	38	
12月	616	612	307	305	153	151	114	37	
2014. 1月	626	622	314	308	158	150	103	47	
2月	573	568	303	265	121	144	102	43	
3月									
年度計	6,804	6,752	3,649	3,103	1,467	1,636	1,182	455	

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

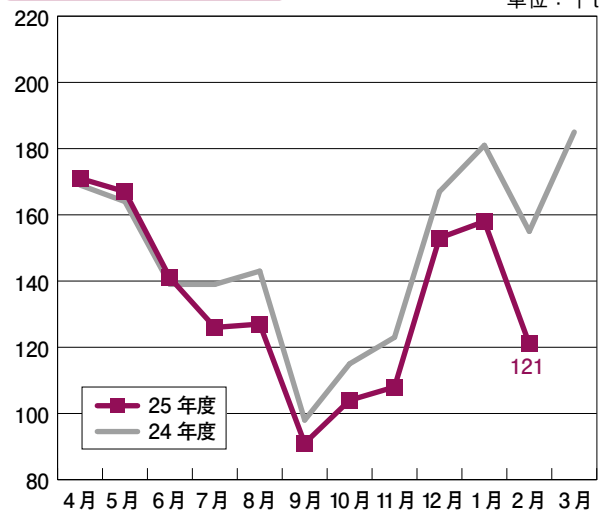
① 牛乳等向処理量

単位：千t



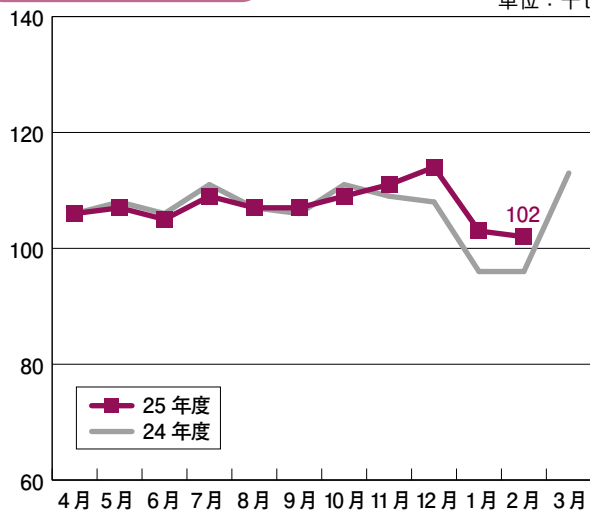
② 特定乳製品向処理量

単位：千t



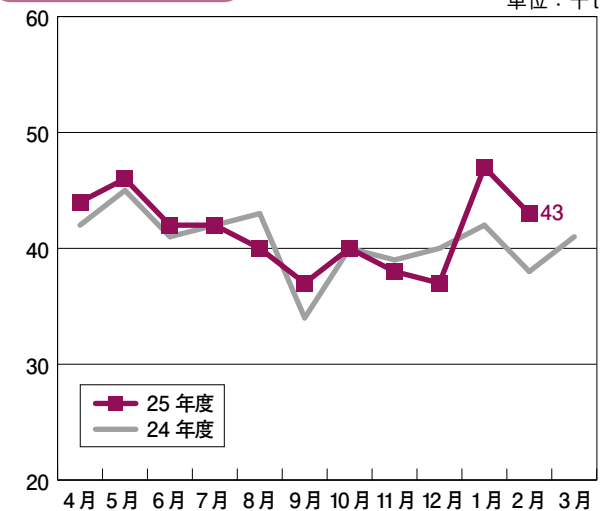
③ クリーム向処理量

単位：千t



④ チーズ向処理量

単位：千t



特定乳製品（脱脂粉乳・バター）の国内生産及び出回り量の推移

※生乳需給動向の指標となる特定乳製品の生産及び消費の動向です。

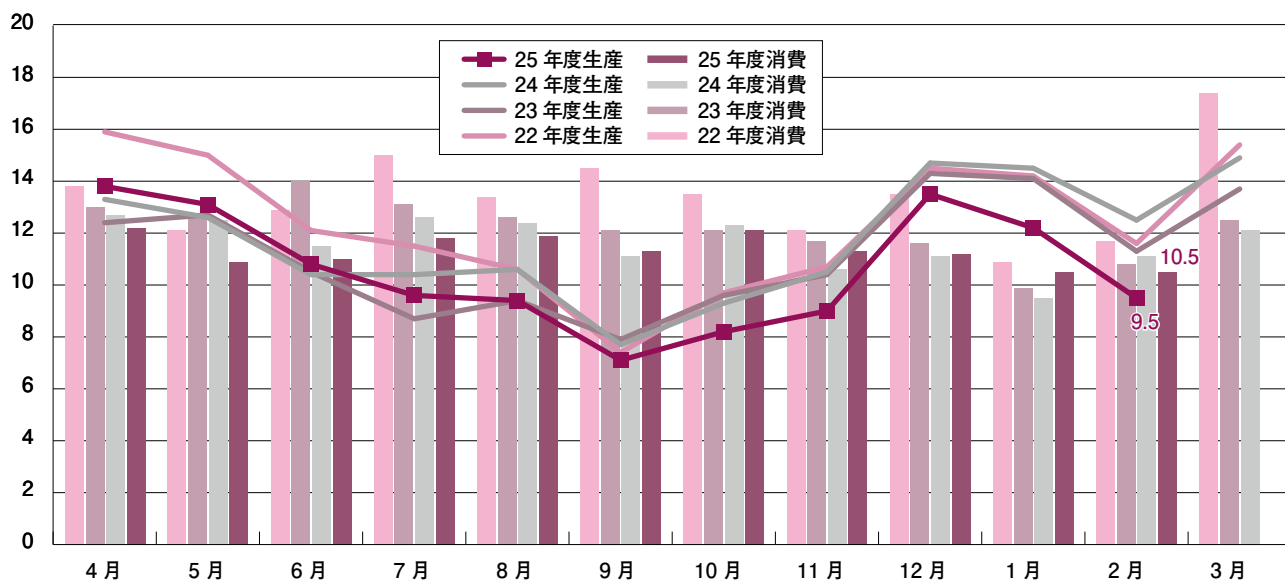
単位：千t

年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量	年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量
2012. 4月	13.3	12.7	6.7	6.4	2013. 4月	13.8	12.2	7.0	6.1
5月	12.6	12.5	6.5	6.4	5月	13.1	10.9	7.0	5.5
6月	10.4	11.5	5.5	6.8	6月	10.8	11.0	5.7	5.8
7月	10.4	12.6	5.4	6.2	7月	9.6	11.8	5.1	5.8
8月	10.6	12.4	5.6	6.0	8月	9.4	11.9	5.1	5.7
9月	7.7	11.2	3.7	5.8	9月	7.1	11.3	3.6	5.0
10月	9.3	12.5	4.3	5.6	10月	8.2	12.1	3.9	5.5
11月	10.5	10.9	4.8	5.7	11月	9.0	11.3	4.2	6.2
12月	14.7	11.1	6.2	7.8	12月	13.5	11.2	5.5	7.3
2013. 1月	14.5	9.5	7.6	4.8	2014. 1月	12.2	10.5	6.5	4.9
2月	12.5	13.9	6.3	6.5	2月	9.5	10.5	4.8	5.7
3月	14.9	17.7	7.4	8.7	3月				
年度計	141.4	148.5	70.1	76.7	年度計	116.2	124.7	58.3	63.6

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、農畜産業振興機構、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調べ

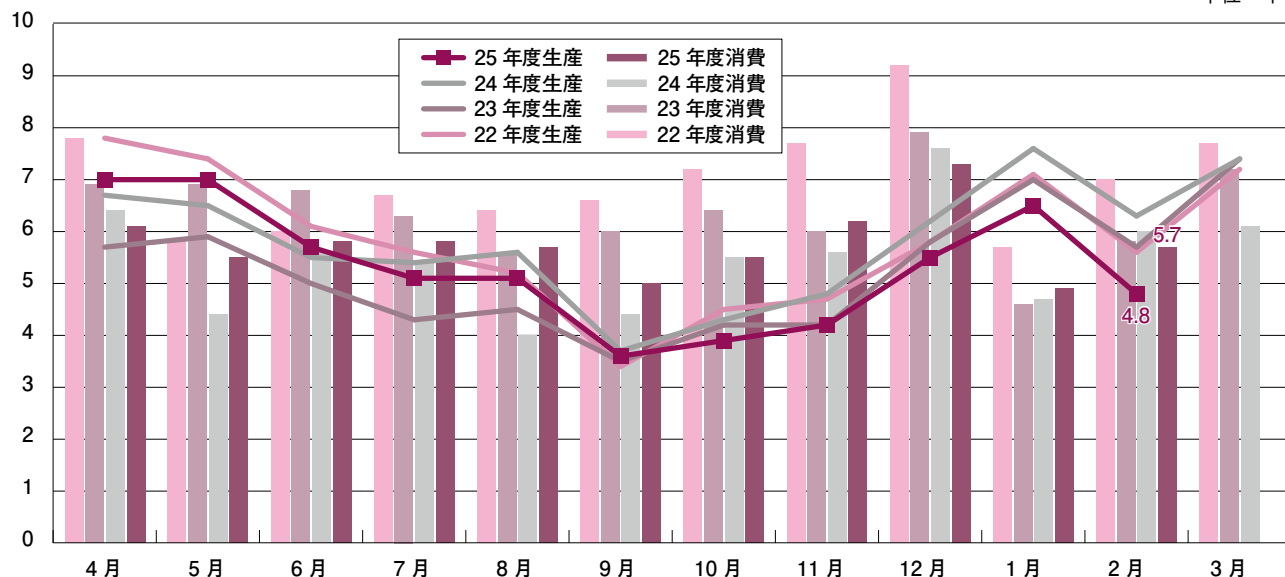
脱脂粉乳の生産及び出回り量推移

単位：千t



バターの生産及び出回り量推移

単位：千t



脱脂粉乳・バターの国内在庫及び大口需要者価格の月別推移

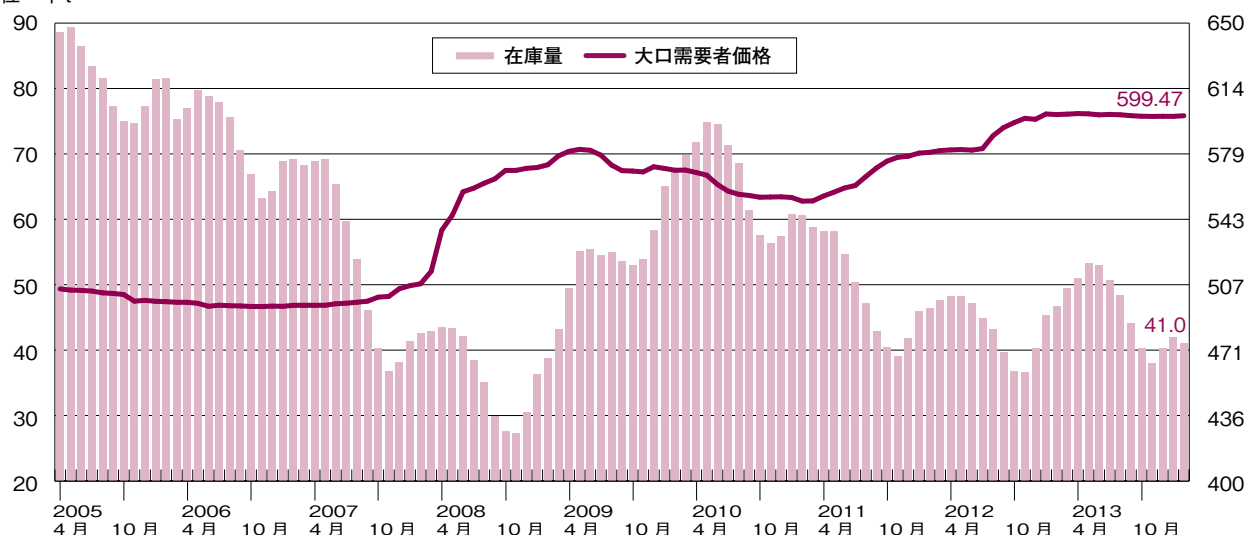
区 分	バター		脱脂粉乳		区 分	バター		脱脂粉乳	
	期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格		期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格
年度/月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg	年度/月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg
2012. 4月	19.4	1,116.2	48.2	580.80	2013. 4月	24.4	1,177	51.0	600.65
5月	21.5	1,122.9	48.2	580.99	5月	25.8	1,178	53.2	600.50
6月	21.5	1,132.4	47.1	580.69	6月	25.7	1,178	53.0	599.96
7月	21.5	1,135.2	44.9	581.49	7月	25.0	1,177	50.7	600.19
8月	23.2	1,145.7	43.2	588.53	8月	24.5	1,178	48.3	600.00
9月	22.4	1,154.3	39.7	593.03	9月	23.0	1,178	44.1	599.50
10月	21.3	1,155.2	36.7	595.73	10月	21.4	1,177	40.3	599.20
11月	20.5	1,159.0	36.6	598.06	11月	19.4	1,178	38.0	599.09
12月	19.0	1,161.0	40.3	597.52	12月	17.6	1,178	40.3	599.16
2013. 1月	21.9	1,165.7	45.3	600.42	2014. 1月	19.1	1,178	42.0	599.12
2月	22.2	1,174.3	46.7	600.11	2月	18.2	1,181	41.0	599.47
3月	23.5	1,174.3	49.5	600.34	3月				
年度計	257.9	13,796.2	526.2	7,097.71	年度計	244.1	12,958	501.9	6596.84

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、大口需要者価格

脱脂粉乳 国内在庫・大口需要者価格推移

単位：円/kg

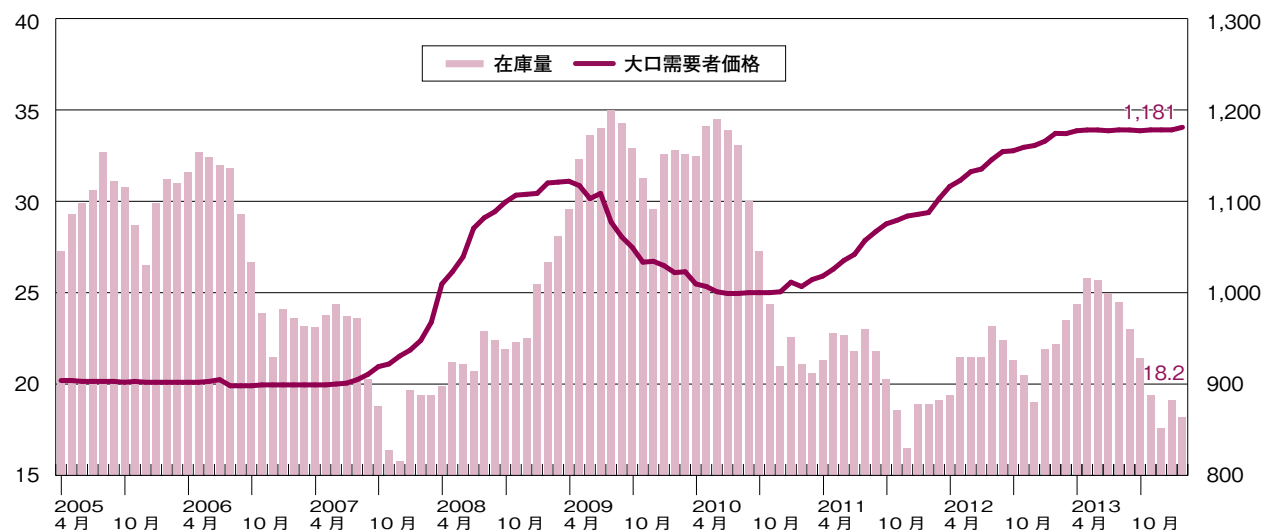
単位：千t



バター 国内在庫・大口需要者価格推移

単位：円/kg

単位：千t



人事異動

新			旧			氏 名
■平成26年4月1日付異動発令						
購買部	酪農生産指導室	主席研究員	購買部	酪農技術研究所	研究員	石 川 光 宏
購買部	酪農技術研究所	研究員	購買部	酪農生産指導室	研究員	猪 内 勝 利
■平成26年4月1日付昇格発令						
酪農部	乳食品課長代理		酪農部	乳食品課	副審査役	町 田 篤 史
管理部	情報システム課	主事	管理部	情報システム課	主任	廣 松 宣 聡
購買部	酪農生産指導室 兼 酪農技術研究所	技監	購買部	酪農生産指導室 兼 酪農技術研究所	主席研究員	齋 藤 昭

全酪連2014年のニューフェイスが集結!

4月1日(火)、全酪連本所 相鉄田町ビル(東京都港区)において平成26年度新入職員入会式が行われ、今年度は、大学・大学院卒業が15名、高校卒業が3名入会しました。これからよろしくお願いいたします。

役員との記念撮影



新入職員一人ひとりと握手を交わす ▶



◀ 新入職員による誓いの言葉

乾乳期・移行期専用配合飼料

今春
新登場!

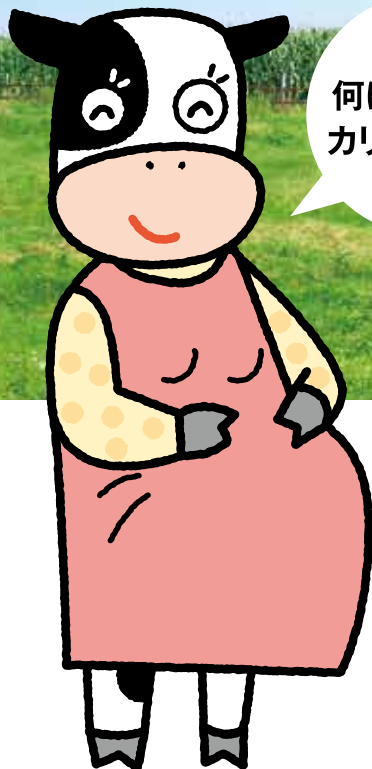
DRY&FRESH SE

ドライ&フレッシュSE

移行期対策にお悩みですか?
おまかせ下さい!

移行期牛管理のゴール

- 高泌乳の達成
- ボディ・コンディションの維持
- 代謝障害を最小に
- 繁殖の向上
- 健康な子牛の誕生



何はともあれ
カリウム低減!

DRY&FRESH SE

ドライ&フレッシュSE

- クロースアップ期に必要なミネラル・ビタミンを強化!
マグネシウム、イオウ、セレンも配合しました。
- ビートパルプをふんだんに配合し、カリウム低減と、
分娩後の乾物摂取量の向上を実現します。
- 『アリメット』『ソイプラス』を配合し、ルーメン・バイパス・
メチオニンとリジンを強化しています。



20kg

詳しくは最寄りの全酪連支所までお問い合わせください。



Your Partner 全酪連

購買部 03(5931)8007



札幌支所 011(241)0765
釧路事務所 0154(52)1232
帯広事務所 0155(37)6051
道北事務所 01654(2)2368

仙台支所 022(221)5381
北東北事務所 019(688)7143
東京支所 03(5931)8011
北関東事務所 027(310)7676

栃木駐在員事務所 028(689)2871
名古屋支所 052(209)5611
大阪支所 06(6305)4196
中四国事務所 086(231)1120

近畿駐在員事務所 0794(62)5441
三次駐在員事務所 0824(68)2133
福岡支所 092(431)8111
南九州事務所 0986(62)0006

北海道 乳牛産地情報

平成26年4月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲.....強含み ▼.....やや強含み →.....横這い ◆.....やや弱含み ↓.....弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	30~34	→	3月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計95.4%、累計97.3%、苫小牧管内月計97.9%、累計96.8%。4月の初妊牛動向について、6月腹を中心に取り引される見込み。先月同様に自家保留の傾向が強く資源は少なめになると思われる。販売用に出回る初妊牛の腹はF1腹が最も多く、次いでホルズ選別腹、ホル腹となっている。
	初妊牛	52~58	→	
	経産牛	43~48	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30~36	→	3月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計94.3%、累計98.1%、中標津管内月計95.1%、累計96.7%。4月の初妊牛動向は6月下旬から7月腹中心。通年導入するメガファームの動きによっては、夏分娩でも極端な値下がりにはせず、育成牛も高値傾向が継続する見込み。新年度から離農農家の経産牛販売があるが、良好な経産牛は高値が予想される。
	初妊牛	54~58	→	
	経産牛	48~50	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	29~34	→	3月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計99.3%、累計100.0%。4月の初妊牛動向は夏産み前の引き合いが強く、6月中旬頃までの分娩腹は高値で取引される見込み。経産牛についても、初妊牛の高値安定や生乳生産量の減少などの理由で価格は強含みで推移する予想。夏分娩に向け都府県需要は減少するが道内需要は活発で価格は堅調な見通し。
	初妊牛	54~60	→	
	経産牛	45~52	▼	
道北管内	育成牛(10-12月令)	28~35	→	3月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計97.6%、累計98.7%、北見管内月計98.4%、累計98.9%。4月の初妊牛の動向は、6月から7月腹中心だが、宗谷及び北見管内の生乳生産量の減少により自家保留の動きが強く、初妊牛や経産牛の出回り頭数は減少傾向。出回り頭数の減少により価格は依然としてやや強含みで推移する見込み。
	初妊牛	53~60	▼	
	経産牛	43~50	▼	
道内総括	育成牛(10-12月令)	30~35	→	3月中旬までの生乳生産量前年比は97.0%、累計98.4%。年度内は、導入事業等の消化と消費増税も相まって初妊牛は高値で取引された。4月以降は都府県需要は少なくなるが、メガファームの荷動きや新規牧場の導入によっては、F1腹を中心に大きな値下がりはない見込み。道内も生乳生産量が減少しているため、地元の導入や自家保留により出回り頭数減が予想される。
	初妊牛	54~60	→	
	経産牛	45~50	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

第4回酪農いきいきフォトコンテスト

今月の表紙は、「第4回酪農いきいきフォトコンテスト」(第42回全国発表大会にて開催)で応募いただいた作品(北海道 池田 辰実氏 撮影)です。曇り空ですが、これから白い光が差すような予感ができる1枚です。



shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

▼今月号より、文字の大きさを二回り大きく掲載しております。読みやすさはいかがでしょうか？
 ▼会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

編集後記



平成26年4月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
 MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報 4月号 No.583

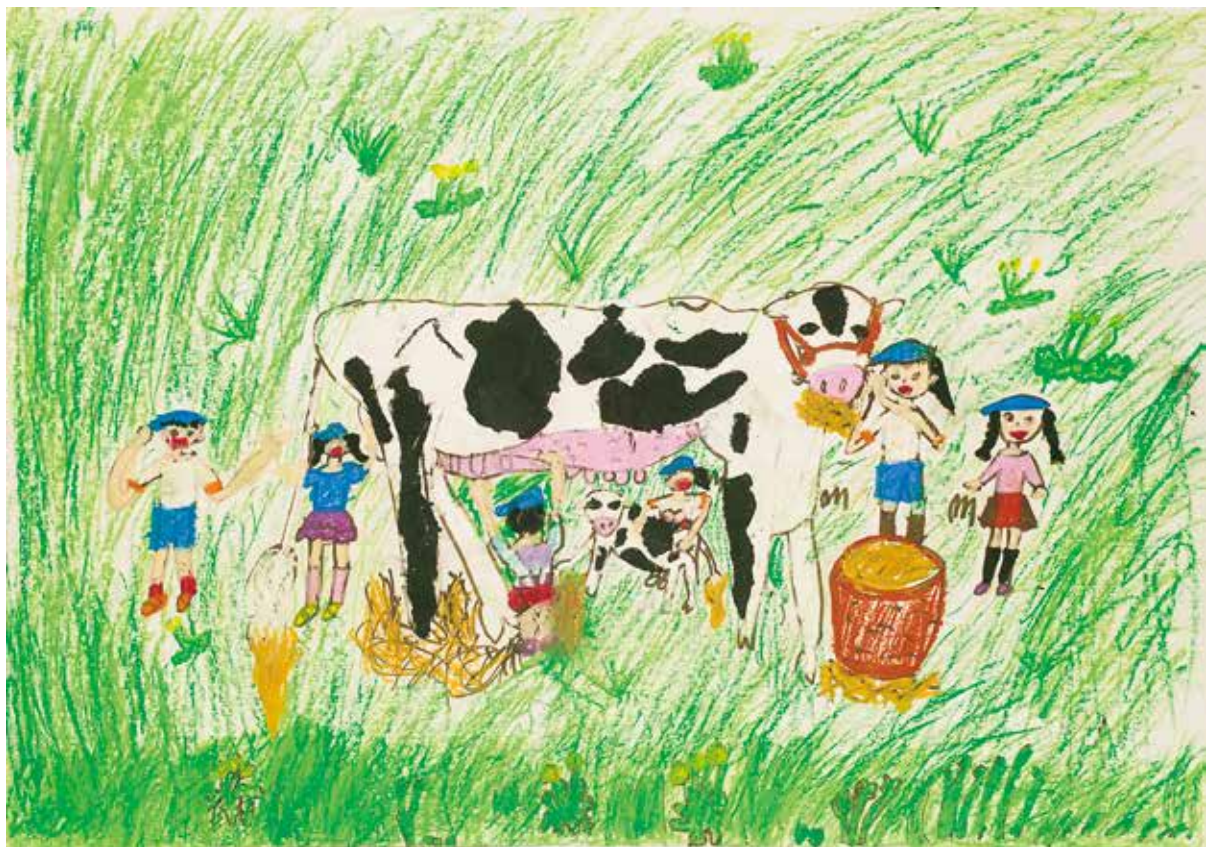
●編集・発行人 中島 裕志郎

●発行 全国酪農業協同組合連合会

〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号

TEL 03-5931-8003

http://www.zenrakuren.or.jp/



今月の



入賞作品紹介

牛かわいいな。あったかかったよ。

大家小学校(関甲信)3年 長井 奏美



今月の入選作品は、大家小学校（関甲信）3年の長井 奏美さんの作品です。
牛さん親子と遊んだ楽しげなひとときが伝わってくる絵です。エサをあげたり、乳をしぼったり、子牛さんに触ったりした経験が絵にうまく反映されています。次回は背景にもこだわってみましょう。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第40回らくのうこどもギャラリー」で全国377点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議

第
43
回

全国酪農青年女性 酪農発表大会



平成26年
7月17・18
木 金

日程

7月17日(木)

- 13:00 ~ 13:55 開会式
- 14:00 ~ 16:15 酪農経営発表
- 16:15 ~ 16:25 らくのうこどもギャラリー表彰式
- 16:40 ~ 18:15 酪農意見・体験発表
- 19:20 ~ 21:20 懇親会

7月18日(金)

- 9:00 ~ 9:30 酪農経営発表質疑応答
- 9:30 ~ 10:00 酪農意見・体験発表質疑応答
- 10:15 ~ 11:40 審査講評・表彰式
- 11:40 ~ 11:50 閉会式

大会参加費

1名 **13,000 円** (大会・懇親会まで)
※宿泊につきましては、各地域会議事務局にお問い合わせください。

大会会場・アクセス

●会場

「ホテルメトロポリタン仙台」
〒980-8477 宮城県仙台市青葉区中央1丁目1-1
TEL 022-268-2525



●宿泊

「ホテルメトロポリタン仙台」又は「ホテルモントレ仙台」
[ホテルモントレ仙台]
〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央4丁目1-8 TEL.022-265-7110

■交通のご案内

- JR仙台駅 西口より徒歩1分
- 仙台空港より仙台空港アクセス鉄道で約25分
- 東北自動車道仙台宮城ICより県道仙台西道路線、車で約20分
[新幹線でお越しの場合]
2階(西口)からペデストリアンデッキを経て2階玄関へ
[地下鉄でお越しの場合]
地下鉄仙台駅南6番出口を経て1階正面玄関へ

